

札幌医学技術福祉歯科専門学校
学校関係者評価報告書
(平成28年度)

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

学校法人西野学園 札幌医学技術福祉歯科専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人西野学園は平成24年度より学校自己評価を行い、本学園のホームページ上に公表いたしております。

また、平成26年度には本校に関係のある外部の方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施し、平成27年度および28年度においても引き続いて行いました。

今年度においても学校関係者評価委員会にて本校卒業生のほか、関係業界、地域住民の方々より多くの貴重なご意見・ご要望を賜り、学校関係者評価の重要性を改めて認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今年度も引き続き、組織改編による新体制の下でより良い学校運営、教育活動を目指して教職員一同力を合せて努力して参りますので、関係者の皆様のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年9月

札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長 澤田 和宏

「学校関係者評価」の実施について

今回は「平成27年度 学校自己評価」に基づき、学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には事前に「平成27年度学校自己評価」を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見・ご要望を頂戴しました。

評価していただいた結果に対しては速やかに改善策を構築し、社会のニーズに適した学校運営や教育課程の編成を組織的・継続的に行うべく、取り組みを推進する所存です。

その内容について要約の上、以下のとおり報告致します。

学校関係者評価委員 名簿

氏名	所属
福井 誠一	元北海道札幌東高等学校 校長 元札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長
品川 雅明	札幌医科大学附属病院 検査部 主任技師
早瀬 健太郎	医療法人社団 祐川整形外科医院 リハビリテーション科 科長
松本 剛一	社会福祉法人ほくろう福祉協会 理事長
室橋 高男	札幌医科大学附属病院 臨床工学部・医療安全部 主任技師
藪 貴代美	北海道言語聴覚士会 副会長 (医療法人明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院)
吉田 建志	医療法人社団 デンタルクリニック大通り 理事長
松田 弘	札幌市中央区西第八町内会 会長

開催日時

第1回 学校関係者評価委員会 平成28年 7月21日(木) 19:00~21:00

第2回 学校関係者評価委員会 平成28年 9月16日(金) 19:00~21:00

平成27年度自己評価結果および平成28年度学校関係者評価委員会評価表

札幌医学技術福祉歯科専門学校

自己評価項目		自己評価	平成28年度学校関係者評価
		27年度	
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材は定められているか。	4.5	教育理念の下、社会のニーズに応える教育が行われるよう教育目標が定められ実施されている。 広報活動の性質上、理念的なものは二次的な扱いになることは仕方のないことであろうが、特に人材育成という観点ではその基盤となるべき考え方として、「西野カラー」を形成する手段ともなり得ることから、学生及び保護者への周知は強化する必要がある。
	2 社会のニーズ等を踏まえた学校の構想を抱いているか。	4.2	
	3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	3.8	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4.0	学校の規模拡大に伴い、今年度より学園および学校組織が大幅に改編されたとのことである。各部門における管理指導体制が明確になったこと、及び学科間連携が取りやすくなったことなど、その効果に期待したい。
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	3.6	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	3.8	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	3.6	
	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3.8	
III 教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.9	授業水準の維持向上については、非常勤講師を含めた授業アンケートとそのフィードバック、授業検討会などが継続して実施されており、一定の質が担保されていると言える。 科目系統図で各々の基礎的科目がどのように卒業(現場)まで発展展開していくのかを明示しており、学生に対しては事あるごとに「現在の立ち位置」を示して、1年生の時から仕事に対する意識や目的意識を醸成すべきである。 多様化する教員業務に対応しつつ、授業技術や専門領域における最新技術への知見を深める機会は重要であるため、研修の充実には引き続き取り組んで欲しい。
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	3.8	
	11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか。	3.8	
	12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。	3.9	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.1	
	14 授業評価の実施、評価体制があるか。	4.2	
	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	3.5	
	16 クラス担任と科目担当の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか。	3.6	
IV 学修成果	17 就職率の向上は図られているか	4.1	高校生の進学を取り巻く事情の変化もあり、進学後の将来像や自身の適性をよく考えないで入学してくる学生が増加してきたとの分析もあることから、退学率を低下させることは容易ではないと言える。 在学生・卒業生の満足度を高める手段のひとつとしても、その社会的活動評価のしきみを作っておくことは有効と思われるため、同窓会組織の充実と併せて今後の検討を願いたい。
	18 退学率の低減は図られているか。	3.4	
	19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。	3.5	
V 学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか	4.0	従前よりクラス担任制を採っていることが本校の大きな特徴の一つとなっており、特に学生対応の部分では大学と一線を画するものとなっているが、更なる学生支援体制の充実のために新組織(学生サポートセンター)が設けられた。生活支援・就職支援・学習支援の3係による、それぞれの分野における今後の展開に期待したい。 教育環境については今年度より新校舎が増築完成し、図書館や自習室が更新充実した。いずれも各法令の基準を満たした施設設備が備えられている。
	21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	3.8	
	22 保護者と適切に連携しているか。	4.0	
	23 卒業生への支援体制はあるか。	4.0	
	24 LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか。	3.8	
	25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.8	
	26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか。	3.5	
VI 教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	3.5	費用予算の制約の中で、国の補助金等を活用した老朽機器等の更新が順次行われている。 地域の一員としての観点から、防災訓練を地域住民を交えて実施すべく検討を願いたい。
	28 図書室利用の活性化が図られているか。	3.9	
	29 防災に対する体制は整備されているか。	3.7	
VII 学生募集	30 学生の募集は適正に行われているか。	3.7	少子化および競合校の増加により入学生確保にはどの学校も苦慮しているが、国家試験合格率や就職率等は正確に広報され、募集業務は適正に行われている。
	31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.6	
VIII 財務	32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	3.7	学園および学校の財務状況は適正なものと言える。
	33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3.6	

IX 法令等の遵守	34	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.0	学校の運営は法令に則り、適正に行われている。コンプライアンスについて、学生の実習時の個人情報の取扱における指導は外部有識者の協力も得て強化していく必要がある。
	35	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.9	
X 社会貢献等	36	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4.0	校舎設備の貸出等を通じた地域貢献が行われており、今後は学生や教職員の「人的資源」を活かした社会・地域貢献が望まれている。
	37	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3.9	
全体平均			3.8	

総括

前年度に引き続き、全体として概ね高い水準での教育が実施されていることが確認できたと思われる。

国家試験の合格、および専門分野への就職を高い水準で維持すべく、全体指導はもとより個人を対象とした学生指導は年々強化されており、今年度の新体制では学科・学校の枠を越えた生活・就職・学習のサポートがなされることとなり、一層の充実が図られる見込みである。

新校舎の完成に伴い新しい図書館がオープンすることになり、学生は在学中だけではなく、卒業後も利用することができるようになるため、卒業後の学会発表の準備等を卒業した学校で行うことも可能となる。また卒業生を積極的に講師として登用し、先輩から後輩への技術知識の伝承や教育効果の向上を図る動きも各学科で見られるほか、学内でも多職種連携プロジェクトの全学的な展開が試みられるなど、西野学園の持つ「資源」を最大限に活用した教育を提供する方策が強く望まれる。

今後も地元と共に歩む学校となるべく、学校行事の地域開放や授業における地域との連携などに取り組むとともに、地域や社会から必要とされる学校であり続けるための努力を続けていく必要がある。

上記をもちまして、今年度の評価結果の報告とさせていただきます。

以上